

川西市議会議員 きたうえあきひと **北上哲仁**

2007年7月 VOL.21

いなほだより

編集：北上哲仁サポーターズ

川西市萩原台東1 - 275 - 3

TEL 072 - 758 - 7724

FAX 072 - 758 - 7725

<http://www.kitaue.com>E-mail akihito@kitaue.com

1951年12月7日 第三種郵便物
認可 社会新報/号外
社会民主党全国連合機関紙宣
伝局 週刊(水曜日発行)
東京都千代田区永田町1-8-1
電話(代)03(3580)1171
定価180円 1ヵ月700円
送料160円

北上の「見た・聞いた・考えた」

言葉の価値と背景にある人格

暑い毎日が続きます。クチナシの花の香りが、心を甘く和ませます。如何お過ごしでしょうか。

いつもご支援頂き、有難うございます。

原爆投下を巡る久間防衛相の「しょうがない」発言には驚きと怒りでいっぱいです。原爆の悲惨さに思いを寄せるなら、絶対に口に出出来る言葉ではありません。ヒロシマ・ナガサキは戦後日本の平和と民主主義の原点です。今回の発言は核廃絶と恒久平和を願う多くの市民に敵対する内容ではないでしょうか。これまでも与党政治家から「核武装容認発言」等が続いていることを考えると、空恐ろしくなりますね。「核と戦争を許さない」という声を大きくしていく必要を益々感じます。

私はヒロシマの灯を掲げて県下を一巡する「反核・平和の灯リレー(8月6日)」に、今年もランナーとして参加する予定です。今後とも皆さんと力を合わせ、地域から平和の声を挙げて行きます。

先月、沢田たか子滋賀県議会議員を大津の県庁に訪ねました。沢田さんは、「もったいない」で有名な嘉田由紀子市民派知事誕生に尽力したベテラン議員(現在5期目 滋賀で唯一の社民党県議)。3時間半お話しさせて頂きましたが、市民の目線を持ち続け、誠実に悩み真摯に政治に取り組む姿



勢が伝わってきました。県民から「新幹線新駅建設の是非を問う住民投票をするべきだ」との請願が議会に出された時、所属する会派はその請願に「反対」することを決定。沢田さんは「県民の声を封じる役割を議会がしてはならない」との思いから、会派を離脱し請願に「賛成」しました。その後、新幹線新駅凍結を訴える嘉田さんとの出会いがあり、知事選勝利へと繋がっていくのです。

評論家の本多秋五さんはエッセイで「言葉の価値はどうしてもその背景である人格だと思う」と述べています。沢田さんのメッセージが人々の心に響くのは、言葉が洗練されているからだけではなく、彼女の生き様と人柄こそが大きな力なのだとは感じました。

お元気で、楽しい夏をお過ごしください。

川西市議会議員

きたうえあきひと
北上 哲仁



16点にわたって総括質問

「安心して暮らせる街に」

3月市議会では自治市民クラブを代表して、市長の施政方針と新年度予算に対して総括質問を行いました。主な内容は、

川西市非核平和都市宣言に基づく具体的施策
子どもの人権オンブズパーソン制度に対する
評価と今後の取り組み

里山・猪名川の地域教育における活用
格差是正とセイフティーネットの確立
公共工事を巡る収賄と入札制度改革
民主的なリーダーシップ

職員の意欲と能力を発揮する仕組みづくり
市民活動による多様な公共サービス提供
乳幼児健診の充実と複数力所実施

障がい者施策の長期構想

保育施策の充実と官民格差是正

小学校給食の評価と中学校給食実施の検討

大阪国際空港への米軍機離発着と住民の安全
公共交通施策の充実

産業活性化の具体策

県立高校選抜制度改革に対する市の考え方
などです。

川西市の財政状況は依然厳しく、累積の市債は420億円（一般会計予算とほぼ同額）。緊縮型予算編成が続いています。

私は、単なる節約に終始するのではなく、「若い人たちが川西に移り住みたい、住み続けたいと思える魅力溢れる街」「年を重ねても、障がいがあっても自分らしく安心して暮らせる街」を築いていくために、メリハリを利かした予算編成と政策展開を求めました。

新年度事業で、12歳児までの入院時医療費無料化、高齢者交通費助成制度復活、手話通訳者養成講座開催、小児急病センター整備などが進められることは評価しています。一方、「経費削減のための市立栄保育所廃止は反対。公立・民間保育所ともに保育環境の充実こそが急務」と予算委員会で改めて主張しました。

市民の声

総括質問に対して市民の方から感想を頂きました

姿をお見かけしてもなかなかお話しできませんのでファックスいたしました。会派を代表しての総括質問ではお若いにもかかわらず多岐にわたり質問し、次から次へと答弁者が壇上に現れることに目を見張りました。「よくぞ、ここまで問題点を洗い出し質問されたなあ」と感心しました。貴殿の言動を見て、いつも思いますのは「自分が30歳代の時に、これだけ『他人の幸せ』に頭を巡らし得たか」と言うことです。「政治とは弱者への再分配である」との信念に基づき議員生活に飛び込まれた勇氣、つぶされてもつぶされても突き進む姿は議員の鏡とさえ思います。これからも野次とかいるんな壁にぶつかることがあるでしょうが、「支援している人が大勢いる」と言うことを思い出して頂き頑張ってください。あなたの主催する会にはいつも100人を超える人が集まると言うことは支持の厚さの証であり、あなたは大きな宝物を持っていると言うことです。初心を忘れずにおこなうことなく、子育てしながら市政に励んでください。

(一 傍聴者より)



議員報酬10%削減を提案 / 拙速な定数削減には反対

私をはじめ7名の議員は、3月市議会で議員報酬を10%削減する条例改正を提案しました。2003年1月から昨年10月まで議員報酬は5%削減されていましたが、これは期間を限った措置でしたので、11月からは議員報酬は6万3000円に戻っています。市の財政事情を考慮すれば、引き続きの削減が必要と考えましたが、残念ながら賛成者少数で否決されました。

一方、他の会派からは報酬は下げず、議員定数を4名減らし26名にする条例改正が提案。私は反対し、本会議場で「議会は多様な立場からさまざまな意見を発言し、行政に反映させていくことが求められている。定数削減は市民の声を届けるパイプを狭

めることになり、特に社会的少数者、弱者の側にある市民の声が届きにくくなることを危惧する。大きな組織や地盤がない市民でも議会に参画できるよう、できるだけ広く門戸を開いておく必要がある。また、市は厳しい行財政運営を迫られ、難しい局面にある。だからこそ議会は与えられた役割を存分に発揮し、更に研ぎ澄まされたチェック機能を果たさなくてはならない。財政難を理由に、議会の機能を弱めることにつながりかねない議員定数削減をみずからにわかに行おうとすることは、議会の自己否定に思えてならない」と討論しました。しかしながら賛成者多数で定数削減案は可決されました。

視察報告

議会閉会中は各地に視察に出かけています。

- ・5月9日 北海道奈井江町へ「子どもの権利に関する条例」とフィンランドの施設をモデルに建設された高齢者生活福祉センター。
- ・5月21日・22日 黒字経営を実現した福岡県大牟田市立総合病院や飯塚市の学校給食の取り組みなど。
- ・5月30日 西宮公立保育所ピオトープやみやっこキッズパーク、子育て総合センターなど。他市の先進的な取り組みを学び、参考にしていきたいと考えています。

山内トクシン「^{うちな}「^{ちむく}沖繩^{くる}肝心^{ぬち}命^{めち}」^{たから}どう宝」

講演会に200名の参加

6月26日、アステホールで山内トクシンさんの講演会を開催。今夏の参議院議員選挙（全国比例区）に社民党から立候補する予定の山内さんが、沖縄で暮らす人々の心の叫び、そして国政への意気込みを語りました。山内さんは1935年沖縄県生れ。沖縄戦を体験し、親友や先輩の死を目の当たりに。琉球大学卒業後、高校教員を経て、39歳の若さで読谷村長（6期務める）になります。平和を願う住民の象徴である役場庁舎を米軍基地内に建設するなど、憲法を実践する村長として活躍。日米両政府と粘り強い交渉を続け、基地返還などの成果をあげました。



講演を聴いた女性（60歳代）からは「信念を貫く人が、今の政治に必要。沖縄での経験を活かして是非頑張ってください」との声を頂きました。

6.10ピースアクション「活かせ! 9条 市民のルートク」

6月10日、川西能勢口駅前アステ歩道橋でピースアクションを開催しました。中川ともこ元衆議院議員をはじめ、約20名の市民が交代でマイクを握りました。

50歳代の男性は、「こんな場所は初めて。勇気を振り絞って発言します。いま、本当に大変な岐路に立つ時代です。私は子どもや孫を戦争で死な

せたくない。子どもたちを殺させないために、憲法9条を変える事に反対します」と迫力満点で訴え、立ち止まって聞いている人が拍手を送ってくれました。憲法は「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように決意し制定されたのです。再び戦争への道を歩もうとする政府の過ちを、私たちは黙って許す訳にはいきません。

映画「穴ヶ所村ラブソニー」上映と監督の講演

とき：2007年8月25日(土) 2回上映

ところ：川西市立総合センター 3F 体育室

1回目 15:00 ~ 2回目 18:00 ~

1回目上映終了後、17時より監督鎌仲ひとみさんの講演があります。

入場料：大人1,000円 高校生以下500円



2004年、穴ヶ所村に原発で使った燃料からプルトニウムを取り出す再処理工場が完成した。この工場の風下には豊かな農業地帯が広がっている。菊川さんは12年前からチューリップ祭りを開催し、再処理計画に反対。暮らしに根ざした運動を実践している。隣接した村々で農業を営む人々、特に有機や無農薬で安心、安全な作物を作ってきた農家もまたこの計画を止めたいと活動している。一方、穴ヶ所村の漁村「泊」では職を失った漁師の雇用問題が深刻だ。

村はすでに再処理を受け入れ、経済的にも雇用の面でも必要だという考えが行き渡っている。2005年、イギリスの再処理工場で事故が起きた。取材で見えてきたのは事故の影響よりも、44年間日常的に放出されてきた放射性物質の行方だった。圧倒的な力と経済力に、普通の人々はどうやって立ち向かっていけばいいのだろうか。その取り組みを、人々の営みをそしてそれぞれの選択を見つめてゆく。

(オフィシャルサイトより)

しごと・くらし何でも相談

普段の生活や仕事で困ったことや不安はありませんか。一人で悩まずに一緒に考えましょう。

雇員問目談員

恵須川満延行政書士 小池貞二社会保険労務士 大川一夫弁護士 在間秀和弁護士

連絡先：川西市議会議員北上哲仁事務所 萩原台東1-275-3 ふるさと広場萩原台店2階

電話072-758-7724 ファックス758-7725

北上携帯電話 090-3613-7069 eメール akihito@kitaue.com

